



いつもの景色に探す 自分だけの光

profile

平成20年3月31生まれ。  
フィリピン出身。趣味は写真撮影と音楽鑑賞。

# Spotlight

スポットライト



高校生の写真コンテストで入賞

## 田中 ジックさん

**祖** 父のカメラを初めて手に取ったのは、中学生のころでした。洞爺湖にレンズを向けたり何度か撮影しましたが、高校の部活は軽音楽部を選択。1年の冬には写真部を掛け持ちし、何気ない学校の日常を「始めはなんとなく」写真に収めていました。2年生に進んで全道のコンテストに参加。並んだ写真は、それまで見た高校生の写真とは全然違っていました。それから本やSNSで目

止まった写真の雰囲気を求めるようになりました。淡い陽光、色彩の移り変わり、被写体を浮き上がらせる陰影。同じ設定でカメラを操ったはずなのに簡単には再現できません。ファインダー越しに、いつもの湖畔に差す光を見つめるようになりました。

高校最後の1年間が始まった春、いつもの教室で何気なく取り出したベースのピック。手のひらで遊ばせていると、虹色に光る蝶が現れまし

た。友達に羽根をつまむように頼み、指をシャッターへ。「手のひらに落ちたプリズム」と名付けたその一枚は、ピックを透過した光が虹のように色づき、蝶の羽根のような光景を成した瞬間を捉えていました。高校文化連盟室蘭支部の写真展に出展されると、最優秀賞を受賞。審査員からは「高校生だけど個性を生かした自己表現ができている」と評価されました。

とうや水の駅が取り扱う商品のパッケージ制作を手伝い、写真も展示するなど作品について発信中。SNSで印象に残ったポートレートを集めたスマホを手に「これから人の魅力が伝わるような写真が撮りたいんです」と笑顔を見せます。

休日の昼下がりに、にぎやかな水の駅で不意にカメラを構えました。「こういう景色を撮りたくなるんです」と言った先にあったのは晩秋の窓辺。傾きかけた日の光が、見慣れた場所を柔らかに照らしていました。

### 東奔西走

――十歳の門出を迎えられた皆さん、おめでとうござい――  
――ます。今年の3月で洞爺湖町も同じく二十歳になります。皆さんと同じくまだまだ若い町のこれからを一緒につくっていきましょう。(D.Y)

**先** 日西日本の日本海側を中心に記録的な大雪が降り、札幌市では積雪が1mを超えたそうです。早朝から除雪車の音が聞こえ、私が時間通りに通勤できているのは作業員の方たちのおかげだと、感謝の気持ちでいっぱいになりました。(Y.A)

### 町公式LINEを友だち追加！

イベントや防災など様々な情報に加え、フルカラー版広報紙もご覧いただけます！

